

1 Cardano による三次方程式の解法

複素数係数の三次方程式

$$(1) \quad x^3 + ax^2 + bx + c = 0$$

を考える。

$$y = x + \frac{a}{3}$$

とおいて, y に関する方程式に変換すれば, 2次の項が消えて, (1) は

$$(2) \quad y^3 + 3py + q = 0$$

となる。ここで

$$p = -\frac{a^2}{9} + \frac{b}{3}, \quad q = \frac{2a^3}{27} - \frac{ab}{3} + c$$

である。いま, 2つの未知数 u, v を導入して

$$y = u + v$$

とおいて (2) に代入すれば

$$(u^3 + v^3 + q) + 3(u + v)(uv + p) = 0$$

となる。したがって u, v に関する連立方程式

$$(3) \quad u^3 + v^3 + q = 0, \quad uv + p = 0$$

の解 (u, v) が求められれば, $y = u + v$ は方程式 (2) の解になる。さらに 1 の 3 乗根 $\omega = (-1 + \sqrt{-3})/2$ をとれば

$$(u\omega, v\omega^2), \quad (u\omega^2, v\omega)$$

もまた連立方程式 (3) の解となる。さらに

$$(y - (u + v))(y - (u\omega + v\omega^2))(y - (u\omega^2 + v\omega)) = y^3 + 3py + q$$

となるから

$$(4) \quad y_1 = u + v, \quad y_2 = u\omega + v\omega^2, \quad y_3 = u\omega^2 + v\omega$$

が方程式 (2) の解のすべてである。

さて, 連立方程式 (3) の解 (u, v) に対して, $\alpha = u^3, \beta = v^3$ とおく。この α, β は, t に関する二次方程式

$$(5) \quad t^2 + qt - p^3 = 0$$

の 2 つの解である。よって上の二次方程式の判別式を $D = q^2 + 4p^3$ とおけば, $u^3 = (-q \pm \sqrt{D})/2$ となる。したがって, $X^3 = (-q \pm \sqrt{D})/2$ の解の 1 つを u_0 とするとき, $u_0 \neq 0$ ならば, $v_0 = -p/u_0$ に対して

$$x_1 = u_0 + v_0 - \frac{a}{3}, \quad x_2 = u_0\omega + v_0\omega^2 - \frac{a}{3}, \quad x_3 = u_0\omega^2 + v_0\omega - \frac{a}{3}$$

は三次方程式 (1) の解のすべてである .

$u_0 = 0$ となるのは , $p = 0$ のときに限る . この場合には方程式 $y^3 = -q$ の解の 1 つを y_0 とすれば

$$x_1 = y_0 - \frac{a}{3}, \quad x_1 = y_0\omega - \frac{a}{3}, \quad x_1 = y_0\omega^2 - \frac{a}{3}$$

は三次方程式 (1) の解のすべてである .

関係式 (4) は Cardano の公式と呼ばれる . また , 二次方程式 (5) を三次方程式 (2) の分解方程式という .

例 1.1. 三次方程式 $x^3 + 6x^2 + 3x + 2 = 0$ の解 .

$a = 6$ だから $y = x + 2$ とおけば , 元の方程式は

$$y^3 - 9y + 12 = 0$$

となる . $p = -3, q = 12$ であるから

$$u^3 + v^3 = -12, \quad uv = 3$$

となる . 分解方程式

$$t^2 + 12t + 27 = 0$$

の解は $t = -3, -9$ であるから , u, v として例えれば

$$u = -\sqrt[3]{3}, \quad v = -\sqrt[3]{9}$$

を得る . よって 1 の 3 乗根を $\omega = (-1 + \sqrt{-3})/2$ とすれば

$$y = u + v, \quad u\omega + v\omega^2, \quad u\omega^2 + v\omega$$

が $y^3 - 9y + 12 = 0$ の解のすべてである . したがって求める 3 つの解は

$$x = u + v - 2, \quad u\omega + v\omega^2 - 2, \quad u\omega^2 + v\omega - 2$$

ただし $u = -\sqrt[3]{3}, v = -\sqrt[3]{9}$ である .

例 1.2. 三次方程式 $x^3 - 6x^2 + 15x - 13 = 0$ の解 .

$a = -6$ だから , $y = x - 2$ とおけば , 元の方程式は

$$y^3 + 3y + 1 = 0$$

となる . $p = 1, q = 1$ であるから

$$u^3 + v^3 = -1, \quad uv = -1$$

となる . 分解方程式

$$t^2 + t - 1 = 0$$

の解は $t = (-1 \pm \sqrt{5})/2$ だから , u, v として例えれば

$$u = \sqrt[3]{\frac{-1 + \sqrt{5}}{2}}, \quad v = \sqrt[3]{\frac{-1 - \sqrt{5}}{2}}$$

を得る。よって、1の3乗根を $\omega = (-1 + \sqrt{-3})/2$ とすれば

$$y = u + v, \quad u\omega + v\omega^2, \quad u\omega^2 + v\omega$$

が $y^3 + 3y + 1 = 0$ の解のすべてである。したがって求める3つの解は

$$x = u + v - 2, \quad u\omega + v\omega^2 - 2, \quad u\omega^2 + v\omega - 2$$

ただし

$$u = \sqrt[3]{\frac{-1 + \sqrt{5}}{2}}, \quad v = \sqrt[3]{\frac{-1 - \sqrt{5}}{2}}$$

2 Ferrariによる四次方程式の解法

複素数係数の四次方程式

$$(6) \quad x^4 + ax^3 + bx^2 + cx + d = 0$$

を考える。

$$y = x + \frac{a}{4}$$

とおいて、 y に関する方程式に変換すれば、3次の項が消えて (6) は

$$(7) \quad y^4 + py^2 + qy + r = 0$$

となる。ここで

$$p = -\frac{3a^2}{8} + b, \quad q = \frac{a^3}{8} - \frac{ab}{2} + c, \quad r = -\frac{3a^4}{256} + \frac{a^2b}{16} - \frac{ac}{4} + d$$

である。いま、未知数 w を導入して

$$y^4 = -py^2 - qy - r$$

の両辺に $2y^2w + w^2$ を加えると

$$(8) \quad (y^2 + w)^2 = (2w - p)y^2 - qy + (w^2 - r)$$

と変形できる。この右辺が y に関して平方になるためには

$$q^2 - 4(2w - p)(w^2 - r) = 0$$

となることが必要十分である。すなわち

$$(9) \quad 8w^3 - 4pw^2 - 8rw + (4pr - q^2) = 0$$

この三次方程式は解くことができる。解の1つを w とし、(8) に代入すれば

$$(y^2 + w)^2 = (2w - p) \left(y - \frac{q}{2(2w - p)} \right)^2$$

のように右辺を y に関して平方にできる。よって

$$y^2 + w = \pm \sqrt{2w - p} \left(y - \frac{q}{2(2w - p)} \right)$$

これらの二次方程式を解くことにより、方程式 (7) の4つの根 y_1, y_2, y_3, y_4 がすべて求まる。したがって $x_i = y_i - a/4$ ($i = 1, 2, 3, 4$) とおくことにより方程式 (6) の解もすべて求まる。

(9) は方程式 (7) の分解方程式と呼ばれる。

例 2.1. 四次方程式 $x^4 - 4x^3 + 7x^2 - 10x + 3 = 0$ の解 .

$a = -4$ だから , $y = x - 1$ とおけば元の方程式は

$$y^4 + y^2 - 4y - 3 = 0$$

$p = 1, q = -4, r = -3$ であるから , 分解方程式は

$$2w^3 - w^2 + 6w - 7 = 0$$

$w = 1$ は分解方程式の解である . したがって元の方程式は

$$(y^2 + 1)^2 = (y + 2)^2$$

と変形される . よって 2 つの二次方程式

$$y^2 + 1 = \pm(y + 2)$$

を解くことに帰着される . それぞれの方程式から

$$y = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}, \quad \frac{-1 \pm \sqrt{-11}}{2}$$

これより , 求める解は

$$x = \frac{3 \pm \sqrt{5}}{2}, \quad \frac{1 \pm \sqrt{11}}{2}$$